

あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つよし

—第12号—

令和4年6月15日
平戸市立津吉小学校
文責 校長 田川定司

どうして「いのち」は大切ななの？

現在、学校では「津吉っ子の心を見つめる教育週間」期間中です。教育週間中、たくさんの学校行事や体験学習を計画し、実施していますが、この教育週間の一番の目的は、「いのち」の大切さを考えることです。そこで、教育週間のスタートにあたり、13日（月）の全校朝会で、子供たちに下記のような校長講話を行いました。

兵庫県姫路市に住む、米田一華ちゃんは、平成25年に生まれました。1歳を過ぎた頃、歩き方に違和感が出るようになった。病院で検査した結果、体のあちこちにがんが見つかった。一華ちゃんは緊急入院。無菌室の中で家族にも会えず、抗がん剤治療が始まった。しかし、平成29年8月に一華ちゃんの脳と脊髄にがんが転移。4歳の一華ちゃんは、医師から余命4か月の宣告を受けた。

「がん」と診断された一華ちゃんは、抗がん剤や移植手術など痛みやつらさに何日も何日も耐えた。それに加え、感染症予防から病院では家族の入室が制限され、一華さんには、家族で過ごせる時間が無かった。

一華ちゃんの両親は、一華ちゃんに残された時間を家族いっしょに過ごすことを決め「チャイルド・ケアハウス」の入所を決意した。毎朝病室から仕事に出るパパを見送り、2歳下の妹と初めて一緒に暮らせるようになった。入院生活は大きく変わった。それでも病と戦う現実是不変変わらない。「がん」による痛みは、日に日に強くなっていった。

そんな一華ちゃんの夢は、幼稚園に通うことであった。一華ちゃんの夢をかなえるために、ケアハウスで幼稚園が開設された。先生役は看護師たち。病院で出される食事が少し苦手だったが、幼稚園では、ママの手づくりのお弁当が食べられた。

平成29年12月20日 米田一華ちゃん（4）永眠。

医学の進歩で小児がんの治る確率は向上している。それでも3割の命は救うことができないという。家族と一緒に暮らす、幼稚園に通う、元気に遊ぶという「普通」の生活ができず命を落とした一華さんの生き方から、「命の大切さ」や「当たり前」のありがたさを感じてほしいと思います。

人は、生まれてからこの世を去るまで時間がありますが、この時間を何の目的もなく無駄に過ごしたのでは、命という時間を大切に過ごしたとは言えません。例えば、勉強を頑張るとか、スポーツを頑張るとか、友達や家族と楽しく過ごすなど、充実するような過ごし方をしないとダメです。命という時間を上手に使わないと、命を大切にしているとは言えません。



「命という時間を大切にする」ために、是非4つのことを実行してほしいと思います。

- ① 命という時間を上手に使う。
- ② (命という時間を失わないために) 安全に気をつけた行動をする。
- ③ (命という時間を幸せに過ごすために) 自分以外の人も大切にすること。
- ④ 命という時間が(代々)繋がっていることに感謝する。

皆さん一人一人は、かけがえのない大切な人です。ご両親はもちろん、先生方も皆、皆さんが大好きです。自分の「いのち」があること、そして、毎日楽しく生活できることを当たり前と思わず、感謝して、命という時間を大切にすることになってほしいと心から願っています。



子供たち(4年生児童)の感想

<p>私は、生きていることが幸せなんだなあと思いました。一華ちゃんは、たった4年しか生きられなくて、かわいそうだなあと思いました。家族や看護師さんも、一華ちゃんを支えていて、それも生きるパワーになったのだと思いました。</p>	<p>私も命を大切にしようと思いました。病気になったら、つらくて苦しいんだと思いました。生きている時間は大切なので、無駄にしないようにしようと思いました、人の命も自分の命も、大切にしようと思いました。</p>
<p>何か家族と過ごすのって、普通だと思っていたけど、一華ちゃんのビデオを見てたら、家族と過ごすのって、普通じゃなく幸せなことなんだと思いました。ビデオを見てとても悲しかったです。一華ちゃんのおかげで、命を大切にしようと思いました。</p>	<p>これからは命を大切にするために、危険なことをしたり、危険な場所に行ったりしないように心がけていきたいです。家族がくれた命を大切にしていきたいです。</p>

いちご狩りを体験しました！

13日(月)、全校児童118名と引率の教職員合わせて約130人が、無代寺町にある宮田克幸さんのビニルハウスで、イチゴの収穫を体験しました。収穫の喜びを体感し、感謝の気持ちを育むことを目的に、生活科や総合学習の一環として実施しました。子供たちは甘酸っぱい香りの広がるハウスの中で「イチゴの壁だ」などと歓声を上げ、用意した箱や容器などがいっぱいになるまで熟したイチゴを摘み取りました。摘み取りの手を動かしながら、口いっぱいに甘いイチゴをほおぼり、給食が食べられるか心配するぐらいたくさん試食もしました。

宮田様には本当にお世話になりました。ありがとうございました。

